



# 関町小通信

平成27年10月1日  
練馬区立関町小学校  
学校だより 10月号

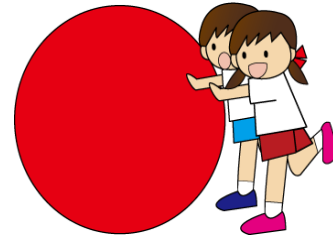
## 運動会は参加することに意義がある

校長 福岡 勤

日本の運動会はいつ頃始まったのでしょうか。調べてみますと、明治7年の海軍兵学寮での「競闘遊戯会」を始まりとする説や、明治29年、初代文部大臣の森有礼が全国の小中学校で運動会を催すよう訓令を発したのを始まりとする説など、諸説あるようです。いずれにしろその当時の学校は運動場すら整備されていない時代でしたので、神社や寺の境内を借りての運動会が大半であったとのこと。また、戦後しばらくの間までは、学校行事でありながら地域住民が大勢参加し、日がな一日家族で楽しむ「娯楽」や「祭り」としての色合いが濃いものでした。その後、時代の変遷とともに、形を少しずつ変え、今に至っている日本独自の伝統的な学校行事となっています。

さて、5年後の2020年夏、この東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。コンセプトであったコンパクト五輪の理念のゆらぎ、新国立競技場の建設・新エンブレムの白紙撤回など、こここのところの問題で、開催機運に水を差された感が否めませんが、スポーツの最大の祭典であるオリンピックの東京開催は子供たちも心待ちにしていることでしょう。

私は前回の「2016年のオリンピックの招致運動」が展開されている最中の「オリンピック教育」についての研修会にて、認識を新たにしました。それは近代五輪の父、クーベルタン氏が語った「オリンピックは参加することに意義がある」という言葉の本来の意味です。この言葉はとかく「勝ち負けは二の次、



試合に出場・参加さえすればよい」と誤解、曲解されがちですが、実は「勝利することや金メダルを取ることよりも、オリンピックという最高の場に参加できるようになるまで自らを鍛え、努力ができる人間性をつくり上げることが大切である」というのが本来の趣旨であるようなのです。

教職員も運動会に向けての練習において、この“努力”・“鍛える”という視点で意図的に子供たち一人一人を指導してきました。「体力」は、子供のうちに鍛え、保障せねばならない大切な基礎・基本の「力」の一つであり、国語・算数等に代表される「知力」の伸張だけでなく、スポーツや体育などを通した「体力」の伸張は、バランスのとれた子供の望ましい発育には必要不可欠な「力」と考えます。

また、本年度からこれまでの幼稚園・保育園との連携をさらに推進する一つの取組として、午前のプログラムの中程に、未就学演技として「わくわくかけっこ（年長児）」を新たに組み入れました。年長児のお子さんの奮っての参加をお持ちしておりますので、本校への入学の有無に関わらず、観覧席にてお声掛けいただき、やさしく背中を後押しいただければ幸いです。